

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270400920		
法人名	株式会社メディウエル		
事業所名	グループホームみつわ台桜レジデンス		
所在地	千葉県若葉区みつわ台1-1-4		
自己評価作成日	平成23年12月27日	評価結果市町村受理日	平成24年2月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成24年1月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・医療面には特に力を入れ、利用者様の小さな変化にも気を配りながら、医師と綿密な連携を図っております。
 ・四季の移り変わりを肌で感じて頂けるように、天気の良い日は、その人のペースに合わせて散歩に出かけ、雨天時などは、室内で歌集に合わせて歌うことにより楽しい時間を過ごせるようにしています。
 ・ホーム内では、家庭的な雰囲気大切に、利用者様が安心していただけるように、職員が目配り・心配りしています。
 ・自立支援の視点を大切に、できること・できないことを把握し、利用者様が必要とされていると感じられるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームの運営母体の医療法人厚生会は高齢者の医療に深い関わりを持ち、医療面で専門的なバックアップの下、「高齢者が健康で幸福な楽しい生活を送れること」を目指して設立されたグループホームである。みつわ台団地に隣接し桜並木に面した明るい雰囲気のホームで、家族や地域との交流にも積極的に取り組んでいる。入居期間の長い利用者が多く介護度も年々高まっているが、経験豊富な職員の明るい笑顔と利用者本位の気配り、充実した医療や看護のサポートにより、安心した生活が継続できている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 グループホームみつわ台桜レジデンス	5つの理念を定め、具体的に職員に伝えている。職員は理念に沿ったケアを実践している。	「健康で幸福な生活支援」「尊厳重視」「地域密着の医療・介護」「介護技術の向上」「科学的医療介護」と医療法人の運営するホームならではの5つの理念を掲げ、玄関に掲示し実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会活動や敬老会に参加したり、ホーム行事・運営推進会議への出席などの働きかけをしている。	自治会の行事や活動に参加したり、ホームの行事に自治会代表を招待、ホームの広報誌をバス停に掲示するなど地域との交流に努めている。地域の各種のボランティアも受け入れている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	踊り、演奏、歌などのボランティアが訪問し活動している。又、看護学校の実習生を受け入れている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は年3回地域包括職員や介護相談員、家族の参加を得て実施している。毎回約半数の入居者・家族が参加し、終了後には懇親会を実施して気軽に話し合い運営に生かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	千葉市の担当課と密に連絡をとっている。	千葉市の担当課とは、諸報告、相談など都度連絡をとり、お世話になっている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止研修を受講し、拘束のないケアを実践している。	県の身体拘束廃止基礎・専門課程講座を職員に受講させ理解を深めている。入居者の介護度が進む中で、センサーマット使用や職員手づくりの工夫で安全性を確保し、玄関にも施錠せず拘束のないケアに努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止研修を受講し、見過ごされる事がないよう、注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加、学ぶ機会を持ち、それらを活用できるよう支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見・要望ボックスを設置したり、推進会議などで機会を作っている。	年3回の運営推進会議及び引き続いての懇親会、季節ごとのホームの諸行事への家族の参加が多く、気軽に話し合える関係を作っている。運営推進会議での家族を交えた話し合いは、家族アンケートでも好評を得ている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を聞く事を心掛けており、前向きに協力して、共に取り組んでいる。	管理者は日々の職員とのコミュニケーションを大切にしており、また毎月の定例会議や年2回の個別面談なども実施し、意見や希望を運営に反映している。職員も熱意をもって働いている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう環境・条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的にスキルアップ研修を重ねている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に所属しており、勉強会・研修会などで意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の不安・要望等に耳を傾け、安心できるよう努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族等と信頼関係が持てるよう常に努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人と家族が必要としている支援を見極め、対応に努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>尊厳と尊敬の念をもって関係を築いている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていける関係を築いている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの人や場所との関係を大事に支援に努めている。</p>	<p>家族の来訪を歓迎し、来訪時にはコミュニケーションを大切にしている。地域の行事にはなるべく参加し、一人ひとりの生活習慣を大切に支援に努めている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士が関わり合えるよう、共通の話題を提供したりして支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、電話等で近況をお聞きし、わかる事はお答えし、相談・支援に努めている。		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の把握に努めている。	本人・家族の思いを大切に、職員は常に声掛けを行い意思の疎通を図っている。言葉にしづらい思いは日々の表情からくみ取っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人より聞き取りをして、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ここの現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者・家族の希望や意見、主治医や職員の意見や気付きなどを基に具体的に介護計画を作成している。	介護計画書は介護支援員が本人・家族の思いを反映して作成し職員に周知させている。モニタリングの結果は業務ミーティングで話し合い介護計画の変更があった時には、家族にも説明し了解頂いている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人一人の特徴や変化を具体的に記録し、状態変化に応じた随時の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と連携を取りながら、必要に応じて、地域包括支援センター等に相談しながら、情報を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の社会資源を把握し、活用しながら、地域に見守られ、安全で豊かな生活を楽しめるよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人であり、その医院に内科・精神科があることから、専門分野の一つで認知症に関する指導、助言が受けられる。往診もされている。	母体である医療法人と連携して月2回医師の往診があり、職員に看護師も配置している。夜間、緊急時にも連絡が取れる24時間体制も構築され、適切な看護や医療を受けられるよう支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職が情報を共有・相談して適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ターミナルケアを視野に入れ、看護師の体制を手厚くしている。又、入居者が入院した時は、職員がお見舞を重ねるなどして、医療機関との連絡を密にし、安定的な連携をとっている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアのホームの方針を説明し、チームで支援に取り組んでいる。	重度化やターミナルケアについては、契約時に本人・家族の意向を踏まえ説明している。運営推進会議でもご家族・職員との話し合いを重ね、ホームでできる最良の支援が行えるよう取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部での応急手当の受講に参加したり、業務ミーティングでの勉強を重ねている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な場面での避難訓練を行なっている。	ホームでは水害と震災を経験し食料の備蓄等、普段から心掛けている。年2回の消防署と連携した防災訓練は夜間想定でも実施し、近所に住んでいる職員とは緊急時の協力体制もできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者を否定することなく、さりげない介助を心掛けている。	利用者の気持ちに合わせた対応を心掛けている。職員が仕事を優先するのではなく、利用者のペースに合わせた対応ができるよう取り組んでいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望を意図的に引き出す言葉かけを心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日課はあっても、個々のその日の気分、気持ち、希望を大事に支援を行う。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1,2ヶ月に1度の訪問理容師を利用したり、入浴時に髭そり、爪切りなどを行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の力量に合わせて、盛り付け・おしぼり丸め・食器の片付けなど行っている。	食材は業者の宅配を利用し利用者も野菜の下ごしらえや盛り付け等一緒に行っている。四季折々の行事を大切に、旬の食材や行事食を取り入れメニューにメリハリを付けている。おやつを手作りしたり、利用者の好みを大切にしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表が作成されており、摂取カロリー、栄養バランスは把握されている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時の口腔ケアの実施。週1回の訪問歯科による口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、自立に向けた支援を行っている。	利用者の排泄パターンを把握し出来るだけトイレでの排泄を支援している。水分補給と下肢筋力の低下防止に努め、歩く事で便通を整えるよう工夫している。夜間も立位がとれる方はトイレへ誘導している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し、個々の排便習慣を把握し、牛乳や野菜など勧めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おおよその時間帯は午前中になっているが、入居者本位の支援ができるよう配慮している。	利用者は2日に1回午前入浴が基本であり、それぞれの状態に合わせて入浴の支援を行っているが時間にゆとりがない。	入浴後すぐに昼食となることもあり、全体の業務手順見直しの中で、入浴時間の工夫も検討願いたい。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の日々の体調に応じ、昼寝や睡眠を支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が2名、医師との対応ができていることから、服薬管理には特段の注意を払っており、入居者別に薬ケースで管理している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	力量に合わせた役割、季節の行事、ドライブ、買い物などで、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩を日課にしている。シニアフェスティバル、お花見など希望を聞いて支援している。	近隣の散歩を日課とし、敬老会主催のシニアフェスティバルなど行事への参加や、桜の季節には外出の機会を増やすなどできるだけ戸外に出る工夫をしている。また家族と協力により出掛けることを積極的に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力量に合わせ支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話がかけられます。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間の入り口には目印をつけ、混乱を防いだり、季節感を取り入れてディスプレイをしたり、感じ取れるよう配慮、工夫しています。	共有のスペースは明るく、掃除が行き届いている。玄関や室内の壁には利用者の習字や季節感を取り入れた飾りつけがされ、居心地の良い場所になっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が使いやすいように設計され、スペースに合ったソファ、椅子などを置き、自由に過ごせるようになっている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と家族が相談し、思い出・馴染みの家具などを持ち込み、安心して過ごせるよう個性的に作られている。	各居室にはそれぞれの馴染の家具や思い出の品を持ち込み、落ち着く場所になるよう本人・家族とも相談し工夫している。動線には危険が無いように配慮し、清潔にも心掛けている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレの入り口には目印をつけて混乱を防いだり、できること・できないことを見極め、できないことをお手伝いするよう心掛けている。		